




清明高校について
知っておいてほしいこと。

京都府立清明高等学校

An illustration of a hillside with green trees and a path. Several stylized figures are shown walking up the path. The background is a light, textured white. The figures are in various colors and poses, some carrying backpacks. Their shadows are cast long and dark on the path behind them.

京都市の五山のまん中に

清明高校が生まれたのは、2015年のこと。

以来、さまざまな志望動機や学習経験のある生徒たちが

自分のペースで学べるよう研究と実践を重ね、

今では「つまずきのある人もない人も

共に安心していきいきと学ぶ学校」として、

たくさんの人に知られるようになってきました。

とはいえ、このようなタイプの学校はめずらしく、

清明高校の考え方やスタイルというものが

なかなかイメージしにくいのではないのでしょうか？

そこで、入学後の不安をできるだけ少なくし、
学校生活をスムーズにはじめてもらうために、
基本コンセプト「学びアンダンテ」のエッセンスを
この小冊子にまとめることにしました。

みなさんの進路選択のお役に立てれば幸いです。



オールマイノリティの学校です。

清明高校には、

不登校や学習の
つまずきを経験した人

集団活動やみんなで
同じことをすることに
困りやストレスを感じてきた人

自由な時間を
勉強以外のことに
使いたい人 など、

「普通」といわれる学校生活に
違和感を覚える人

言わば「少数派(マイノリティ)」
と呼ばれる人たちが、
多くの学校から
集まってきています。

そうやって本校に入学した生徒たちは、
自分の性質や特性を自覚しつつ、自分を肯定的に捉え、
また他の生徒たちの気もちも思いやることで、
安心して心地よく過ごせる学校生活を互いにつくりあげています。



失敗から学ぶ学校です。

清明高校では、

科目選択、習熟度別講座編成、探究学習、行事参加、進路選択など、
ほとんどの教育活動に「希望制」と「選択制」を取り入れています。

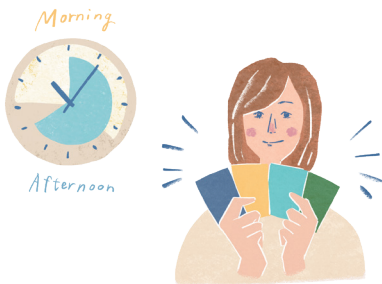
学校が先回りをしてみなさんの失敗を防ぐのではなく、みなさんが
自分の頭で考え、自分事として取り組み、時には失敗から学びつつ、
少しずつ力を身につけたり、壁を乗り越えたりしてもらっています。

わたしたちが相談に応じたり、アドバイスをしたりすることはありますが、
最後の決定はすべて自分で行ってください。そのため、失敗はな
るべく小さく済むように、チャレンジも複数回できるように、さまざま
なしかけをちりばめています。





登校が前提ですが、
登校より大切なことがあります。



定時制の清明高校には、「学校に登校して、授業に出席して、単位を修得することで高校卒業を実現すること」をめざす人たちが集まってきました。

けれども、わたしたちは、無理な登校刺激や学校復帰にのみこだわった働きかけはしないことにしています。「学校へ戻ることだけがゴール」という考えは、生徒や保護者のみなさんへの大きな心理的負担につながりかねず、かえって状態が悪くなってしまうこともあるからです。

全日制、定時制、通信制、高卒認定試験など、さまざまなチャンネルを視野に入れ、自分の進路を主体的に捉えて、自身のコンディションに合ったスタイルを選んでもらっています。



ティーチャーですが、
教えません。

勉強は人に教えてもらうものではなく、
自分で主体的に取り組むものです。

清明高校には、宿題も、補習も、定期テストもありません。また、これまでのような一律一斉の授業はどんどん縮小し、動画やアプリを使った個別学習をどんどん拡大しています。

わたしたちは、
「ティーチャー（＝教える人）」としてではなく、



としてサポートしつつ、みなさんの可能性を引き出します。



あくまでも教育機関です。



清明高校の生徒には、病気や障害により病院や発達支援施設などでケアを受けている人、過去のトラウマ体験や家庭生活の困難により児童相談所や児童養護施設などでケアを受けている人がいます。

ところが、学校復帰よりもまずは医療的ケアや福祉的ケアを受ける必要があるにもかかわらず、そうした専門機関につながることなく登校や高校卒業をめざしてしまい、かえって状態が悪くなるという例が少なくありません。

学校はあくまでも教育機関であり、学校だけでみなさんのWell-beingを支えることはできません。清明高校では、医療・福祉など、みなさんがつながっている専門機関と連携することによって、はじめて、みなさんの高校卒業に向けたサポートができるようになりますと考えています。



依存先を増やします。

「自立」とは、だれにも頼らずにいることではなく、できるだけ多くの人に頼りつついることです。
熊谷晋一郎さんは、これを「依存先を増やしていくこと」と言っています。

依存先が少ないと、その人の顔色を見て行動せざるをえず、自分らしく、思うように生きられなくなってしまいます。例えば、親や教師によるケアの独占が子どもの主体性を奪い、自立を妨げている例は、決して少なくありません。

ですから、みなさんがかかわる人のうち、家族や先生が占める割合をどんどん小さくしていきましょう。その代わりに、友人や先輩・後輩、カウンセラー、バイト先の人、SNSでつながった人、

また人だけでなく本やブログや動画など、さまざまなヒト・モノ・コトとかわる割合を大きくし、たくさんの依存先をつくらせていきましょう。





安心が最優先です。

清明高校には、

ちょっとした打撲や転倒で
とても危険なダメージを
受けてしまう人

心ない言葉やふるまいが
過去の体験と結びつき、
強い不安や恐怖を
感じてしまう人

聴覚や嗅覚などの
感覚が過敏で
環境の配慮が必要な人

グループ活動や人前での
発表が苦手な周囲の理解が
必要な人 など

それぞれが互いの事情を理解し、
他者を気づかいつつ学校生活を
楽しんでいます。

服装や髪型、アルバイトなどについては、
生徒の主体性にゆだねている比較的自由な学校ですが、
暴言や暴力など、生徒の安心・安全が
脅かされるような行為やいじめが認められた場合は、
被害の大小や回数に関係なく、
進路変更を考えてもらうことにしています。





CONTACT

〒603-8163 京都市北区小山南大野町

TEL: 075-417-4031 FAX: 075-417-4032

URL: <https://www.kyoto-be.ne.jp/seimei-hs/cms/>